

NII学術情報基盤オープンフォーラム  
RDCトラック6「研究データ管理支援人材の育成プランを考える」  
2022年6月2日

# 京都大学のRDMに関する取り組みと、 URAによるRDM支援について



京都大学学術研究支援室（KURA）  
リサーチアドミニストレーター  
amano@kura.kyoto-u.ac.jp  
天野絵里子

KYOTO UNIVERSITY

京都大学

*KURA*



# 京都大学のRDMに関する取り組み

## オープンサイエンスデータ推進ワークショップ

第1回 2015/09 ～第5回 2018/03 理学研究科・家森俊彦名誉教授を中心に

<http://wdc2.kugi.kyoto-u.ac.jp/openscws/>

## アカデミックデータ・イノベーションユニット（通称：葛ユニット）

ユニット長：梶田将司教授（学術情報メディアセンター）

京都大学の研究者の研究活動によって生み出される多様なアカデミックデータを適切に蓄積・共有・公開および長期保管するデータマネジメント環境を調査研究

- ◆ 科研費・基盤研究A 2020-04-01～2023-03-31  
「多様な学術研究活動を育むアカデミックデータ・イノベーション成熟度モデルの開発」 <https://www.kudzu.cpier.kyoto-u.ac.jp>
- ◆ 第26回情報知識学フォーラム 2021年12月18日（土）  
「研究データの管理・オープン化・利活用にどのように対応すべきか」  
<http://www.jsik.jp/?forum2021>
- ◆ 第7回京都大学研究データマネジメントワークショップ 2022年3月4日（金）  
[eポートフォリオと RDM スキル開発](#)

## 図書館機構が事務局となり、ワーキンググループを主導

### 2019年度

- 「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」の策定

2020年3月19日 研究者情報整備委員会 承認

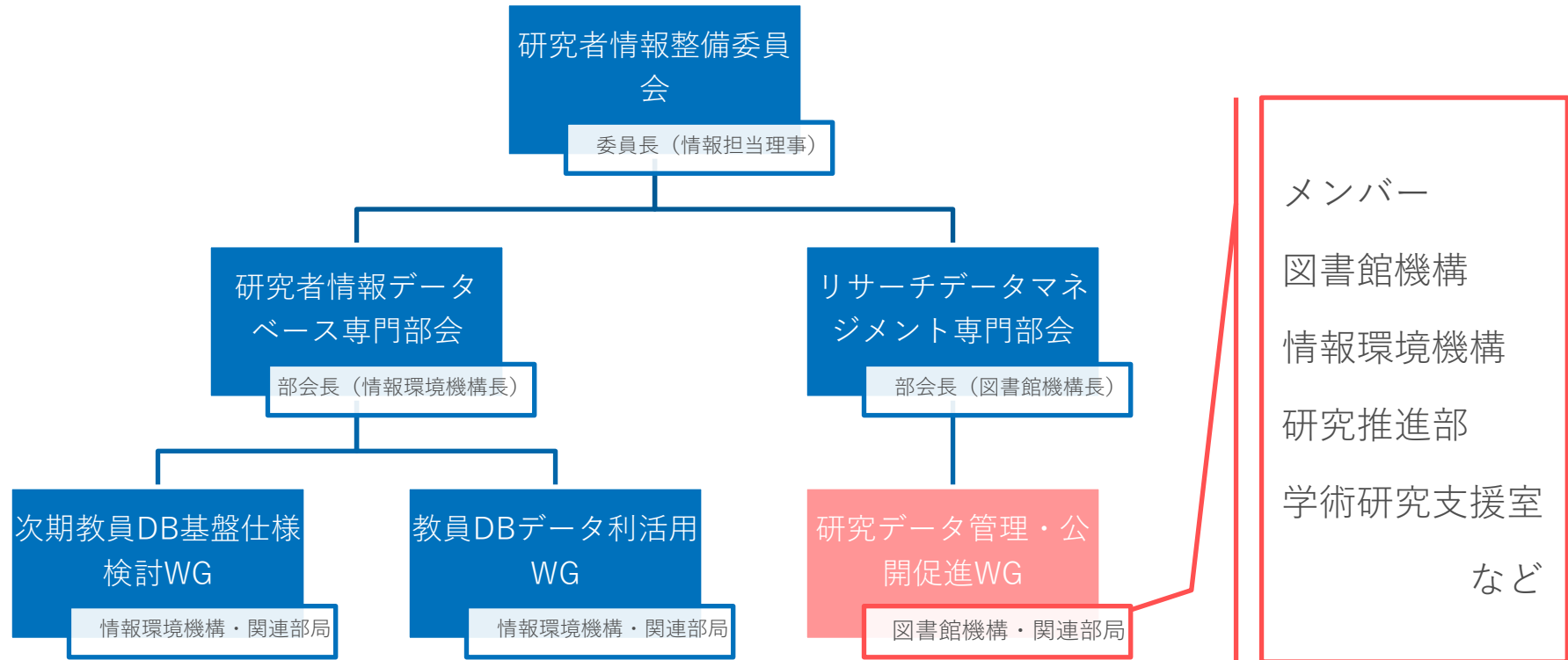
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/research-policy/kanrikoukai>

### 2020年度

- 「部局等研究データ管理・公開実施方針 策定ガイドライン」
- 「部局等研究データ管理・公開実施方針 ひな形」の策定

### 2021年度

- 研究データ管理・公開促進ワーキンググループ
  - 学内体制の検討
  - RDMの研究者向けセミナーの検討



# URAによるRDM支援

研究データ管理支援人材に求められる標準スキル（ver.0.1）の使い方

# カタリスト（触媒）としてのURA





研究者以外のステークホルダーをもれなく想定し、それぞれの役割に応じて全学レベルの研究データ管理に取り組んでもらう体制をつくる



- 研究担当理事や副学長のリーダーシップのもと、研究データ管理を主幹する委員会等を設定
- 業務を実施する責任・技能を備えたメンバーで構成された研究データ管理チームを設置



# ステークホルダーの特定

標準スキル表の「業務を担いうる職種の略称」シートを見れば、学内のRDM体制の検討チームに入ってもらうステークホルダーを想定することができる。

| 略称  | 職名（一例）                    |
|-----|---------------------------|
| 経営者 | 学長、理事、執行部、部局長             |
| RDM | RDMコーディネーター（マネージャ）        |
| 図書  | 図書系事務職員                   |
| IT  | 情報基盤系技術教職員                |
| URA | リサーチアドミニストレーター（URA）       |
| 研推  | 研究推進系事務職員                 |
| 教務  | 教務系事務職員                   |
| IR  | IR担当職員（IRer）              |
| 産官学 | 産官学コーディネーター、産官学担当職員       |
| 知財  | 知的財産担当職員                  |
| 契約  | 契約担当職員                    |
| 秘書  | 研究室秘書、事務補佐員               |
| 実験  | 実験・測定装置担当職員               |
| DS  | （データ解析・分析に関わる）専門職員・技術補佐員等 |

# 必要な業務の検討

標準スキル表の「業務×標準スキル対応表」シートでRDM支援にはどのような業務があるかを一覧し、自機関に必要な業務を検討することができる。

| No | 段階                | 業務区分                    | 業務の詳細               |
|----|-------------------|-------------------------|---------------------|
| 30 | 研究前               | 【機関の】研究データ管理戦略の策定       |                     |
| 31 | 【ポリシー策定・サービス設計段階】 | 【機関の】データポリシー作成・更新       |                     |
| 32 |                   | 【機関の】研究データ管理支援サービスの設計   |                     |
| 33 | 研究前               | 外部資金（研究助成機関）の情報収集       |                     |
| 34 | 【研究の計画段階】         | データマネジメントプラン（申請書類）の作成支援 |                     |
| 38 |                   | （資金獲得後の）体制構築、契約締結支援     | 研究データ管理体制の構築支援      |
| 39 |                   |                         | 契約締結支援              |
| 40 | 研究中               | 研究データの安全・確実な保存の支援       | 情報セキュリティ対策の実施支援     |
| 41 |                   |                         | 保存場所（ストレージ）確保のための支援 |
| 42 |                   |                         | デバイスのセキュリティ確保のための支援 |

# 業務を担いうる職種の想定

標準スキル表の「業務×標準スキル対応表」シートではさらに、自機関に必要な業務を担いうる職種を想定することができる。

| No | 段階                | 業務区分                    | 業務の詳細               | 業務を担いうる職種（参考）                  |
|----|-------------------|-------------------------|---------------------|--------------------------------|
| 30 | 研究前               | 【機関の】研究データ管理戦略の策定       |                     | 経営者／RDM／図書／IT／URA／研推／IR／産官学／知財 |
| 31 | 【ポリシー策定・サービス設計段階】 | 【機関の】データポリシー作成・更新       |                     | 経営者／RDM／図書／IT／URA／研推／IR／産官学／知財 |
| 32 |                   | 【機関の】研究データ管理支援サービスの設計   |                     | 経営者／RDM／図書／IT／URA／研推／IR／産官学／知財 |
| 33 | 研究前               | 外部資金（研究助成機関）の情報収集       |                     | RDM／図書／IT／URA／研推／IR／産官学／知財     |
| 34 | 【研究の計画段階】         | データマネジメントプラン（申請書類）の作成支援 |                     | RDM／図書／IT／URA／研推／産官学／知財／契約／秘書／ |
| 38 |                   | （資金獲得後の）体制構築、契約締結支援     | 研究データ管理体制の構築支援      | RDM／図書／IT／URA／研推／教務／産官学／知財／契約／ |
| 39 |                   |                         | 契約締結支援              | RDM／図書／IT／URA／研推／教務／産官学／知財／契約／ |
| 40 |                   | 研究データの安全・確実な保存の支援       | 情報セキュリティ対策の実施支援     | 経営者／RDM／図書／IT／URA／研推／産官学／知財／契約 |
| 41 |                   |                         | 保存場所（ストレージ）確保のための支援 | RDM／図書／IT／URA／研推／実験／DS         |
| 42 |                   |                         | デバイスのセキュリティ確保のための支援 | RDM／IT／URA／研推／産官学／知財／秘書／実験／DS  |



# URAはどう対応すれば良い？

= “職種”の一つとしてRDM業務へどのように対応するか考えるには？

標準スキル表の「業務×標準スキル対応表」シートで、自機関で必要な業務に対応するスキルを確認することができる。

②必要な業務を確認

③業務に必要なスキルを確認

①「URA」で  
絞り込んで・・・

| No | 段階                | 業務区分                    | スキルID     | 業務に必要なスキル<br>(知識・技術・能力・行動特性) | スキルの詳細                                                           |
|----|-------------------|-------------------------|-----------|------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 30 | 研究前               | 【機関の】研究データ管理戦略の策定       | S11010001 | 戦略策定支援（機関）                   | 機関に必要な研究データ管理の将来像を描いたうえで、現状と将来のギャップを分析し、取り組み                     |
| 31 | 【ポリシー策定・サービス設計段階】 | 【機関の】データポリシー作成・更新       | S11020001 | ポリシー作成・更新支援（機関）              | データポリシーの背景にある「研究公正」と「オープンサイエンス」の潮流や原則を理解したうえで、一般的なデータポリシーに「含まれるべ |
| 32 |                   | 【機関の】研究データ管理支援サービスの設計   | S11030001 | サービス設計・調査（機関）                | ステークホルダーをもれなく想定し、機関レベルで研究データ管理に取り組む体制の構築。ニーズ                     |
| 33 |                   | 外部資金（研究助成機関）の情報収集       | S12040001 | 情報収集・更新                      | 所属組織にとっての主要な外部資金元（研究助成機関）が要求する内容と、所属機関のデータポリ                     |
| 34 | 【研究の計画段階】         | データマネジメントプラン（申請書類）の作成支援 | S12050001 | 事項理解                         | 申請先機関のデータマネジメントプランの「記載要求事項」の理解。                                  |
| 38 |                   | （資金獲得後の）体制構築、契約締結支援     | S12060101 | プロジェクト・デザイン                  | 研究資金獲得後に、データマネジメントプランに沿った「研究データ管理」を行うにあたって連携                     |
| 39 |                   |                         | S12060201 | 契約実務                         | NDA（秘密保持契約）、研究中のデータ共有に係る取り決め、成果の公開範囲、知的財産権の取扱い                   |
| 40 | 研究中               | 研究データの安全・確実な保存の支援       | S20070101 | 情報セキュリティ                     | ①情報セキュリティ対策の概要、②公文書管理法等の関連法令、③「研究データの10年保存」等の                    |
| 41 |                   |                         | S20070201 | 研究データ保存                      | データ保存場所の選択肢（ネットワークドライブ／オンラインストレージ等）とそれぞれの安全性                     |
| 42 |                   |                         | S20070301 | 保存デバイス                       | ①研究活動に用いられるデバイスの物理的セキュリティ対策（部屋の施錠、デバイスの放置禁止、                     |

- 研究前
  - 【機関の】データポリシーの作成
  - 外部資金の情報収集
  - データマネジメントプランの作成支援
  - 契約締結支援（知的財産など）
- 研究中
  - ラボノートの活用支援
  - データマネジメントプランの更新支援
- 研究後
  - オープン・クローズ戦略の立案
  - 論文の普及・宣伝（プロモーション）支援
- 教育・研修、アドボカシー
- 相談窓口、コンサルテーションサービス

科学技術振興機構（JST） 2017より

- CREST
- さきがけ など

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO） 2018より

日本医療研究開発機構（AMED） 2018より

環境再生保全機構（ERCA） 2020より

内閣府

- ムーンショット型研究開発制度（2020）

日本学術振興会

- 科学研究費助成事業（科研費） 2020より ※大型種目
- 令和 6（2024）年度より全ての研究種目において採択された研究課題でDMPの提出を求める予定（令和3年度QAより）

**DMPの書き方、RDMに関する情報提供を通じたオープンサイエンスの推進**

## 今後の課題として：

- 義務化で研究者に負担感を与えるのではなく、研究を発展させるためのRDMをどう浸透させるか？
- 研究力を向上させるための組織のRDM戦略
  - オープンクローズド戦略
  - 研究者のインセンティブ設計

## 人材育成について：

- 研究機関によって必要な業務、それらを担いうる職種は異なる
- 「汎用スキル」で組織内に共通言語を根付かせる
- RDM専門人材（標準スキル上は「RDMコーディネーター」）を新たにおくことも視野にいれる